

▶知っています？市の森林皆伐で市民の財産が失っています。

# 白旗山都市環境林ニュース

2024年8月8日(木) NO.2 発行:札幌の自然を守る会 代表 梶田清尚 HP:<https://midori.kei1.org>

## 身近な森林、なくなつては困る



### 白旗山皆伐が「CO2」を放出 市の「ゼロカーボン実現」に逆行

市民の財産、白旗山環境林。この森林を札幌市長は皆伐・再造林を行うことで「ゼロカーボンの実現」(別掲)を図ると宣言していますが、それどころか実は世の中に逆行することを推し進めているのです。むしろ二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を放出し、地球温暖化を促進する行為を市民の財産である白旗山環境林を皆伐することで実現してしまうのです。では、なぜ札幌市による皆伐が森林破壊につながるか、今後、本紙を通じて取り上げていきます。

白旗山(321メートル、札幌市都市環境林)は1063ヘクタールで札幌ドーム敷地34個分の広さがある市有林。自然観察の森、ふれあいの森とそれらを結ぶ自然歩道があり、四季折々の自然を満喫できます。麓には、冬はスキー距離競技、夏場は天然芝のサッカー場として利用されています。都市環境林とは、都市近郊林の保全・活用を目的として主に市街化調整区域の民有林を公有化した樹林地のことです。札

お知らせ

語る会の開催です。

### 白旗山都市環境林 ここまでやるか森林伐採

- 日時 8月31日(土)午後1時30分から
- 場所 札幌市資料館2階研修室／大通西13丁目
- 会費等はありません。参加は自由です。

◆いま白旗山都市環境林は「大量の木が切られています」その事実を昨年暮れに札幌自然を守る会は現地を確認しました。それはすごい状況です。いま市民のみどりの財産が大きく損なわれています。そこで急ぎよ、当会



資料館

は皆さんと共に考え、共に語り合いたいと思い、その場を設けました。皆さんの参加をお待ちしています。◆北海道自然保護協会も共通の認識を持つことになりました。

幌市は1993年より指定し、現在、市内37箇所、約1,730haとなっています。その近郊の市民などが散策やハイキングなどを楽しむ場となっています。

このように市民が憩い楽しんでいる場である白旗山都市環境林が昨年ごろから「大量の木が伐採されている」ことが利用者の口から人々に伝わり広がっています。この伐採には、昨年暮れに現地を訪れた

札幌の自然を守る会(会長：梶田清尚)が「皆伐による森林破壊の中止の申し入れ」(別掲)をしています。森林の破壊範囲はとんでもない範囲になっており、これだけの広い伐採をいったいなぜ断行したのか、

### HPをご覧ください。

札幌の自然を守る会は「皆伐による森林破壊の中止の申し入れ」を昨年12月14日に行っています。その申し入れと札幌市長の回答は当会ホームページ(HP)をご覧ください。アドレスは本紙題字のところに記載しています。

同会のメンバーも驚き言葉を失いました。

そこで今号から白旗山都市環境林が皆伐される問題点を何回かに分けて、取り上げていきます。

### 札幌市ゼロカーボンシティ宣言

2020年2月26日、第1回定例会の代表質問において、2050年には札幌市内から排出される温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指すこととし、市民や事業者と一体となって、脱炭素社会の実現に取り組んでいく考えを表明し、国内で72番目にゼロカーボンシティを宣言した自治体となりました。

札幌市においては、このゼロカーボンシティの実現に向け、2021年3月に策定した「札幌市気候変動対策行動計画」に基づき、気候変動対策に取り組んでいきます。

札幌市



## 「白旗山」の皆伐・再造林は本当にカーボンニュートラルになるのか ～森林におけるCO2吸収源対策の危うい実態～

### ゼロカーボンの実現に貢献なし

札幌市は市民生活にとってまとまつた森を皆伐する目的は何なのか、市民に説明なくいきなり伐採の破壊現場を見せられた利用者は驚くだけです。ふだんから散策している利用者はなぜこうなったのが当然知りたいところです。札幌の自然を守る会(以下、守る会)は、2023年12月14日に札幌市の秋元市長にまず森林破壊の中止を求めたところです。これに対して2024年1月18日に回答があり、その再質問での回答は2月19日付けてありました。「ゼロカーボンの実現等に向けて」との表題で、「適正な整備を通じて、大気中のCO<sub>2</sub>を吸収し、木材として利用した場合は長期間にわたって炭素を固定することができ、また再造林を行うことで吸収されるCO<sub>2</sub>が再び増加することにより、ゼロカーボンの実現に貢献できる」と回答しています。

守る会は市長のいう「CO<sub>2</sub>の吸収・増加の根拠」が不明のため、

改めてその根拠を質問でただしたところ、市長は「白旗山都市環境林において、個別にCO<sub>2</sub>の吸收・固定・排出量の試算は行っていない」と回答しました。市長は、その根拠を守る会に答えること自体、「市の仕事ではない、国の方針だからそれに従うのは当たり前」と言わんばかりの態度が回答文にうかがえました。

### ゼロカーボンの実現の根拠なし

森林を皆伐する以上は、少なくとも市長自ら「ゼロカーボンの実現に向けて適正な整備」と述べているからには、ただやみくもに森林を伐採していいわけがなく、適正な整備としては数値等の根拠を持って市民の財産である森林を守り育てる義務であり責務があります。

札幌市長がいま進めている白旗山都市環境林の皆伐・再造林は、札幌市のゼロカーボン実現へ向けての効果のほどは、何らの根拠がないことがわかりました。このように無定見な行政執行によって、

市民の大切な森を破壊することは、到底許されることです。

### 森林皆伐によってCO<sub>2</sub>が放出

今後本紙では、市長がゼロカーボン実現のための根拠として森林皆伐をあげていますが、守る会はそれに逆行するもので、むしろCO<sub>2</sub>が放出されることになると判断しています。

市長は、このまま行政執行を進めることで100年をかけて育ってきた市民の貴重な財産が破壊されることになり、これを看過することは後生に悔いを残すことになり、森林破壊は到底許すことはできません。

次号から「『白旗山』の皆伐・再造林は本当にカーボンニュートラルになるのか～森林におけるCO<sub>2</sub>吸収源対策の危うい実態～」と題し、検証結果をシリーズで掲載します。

